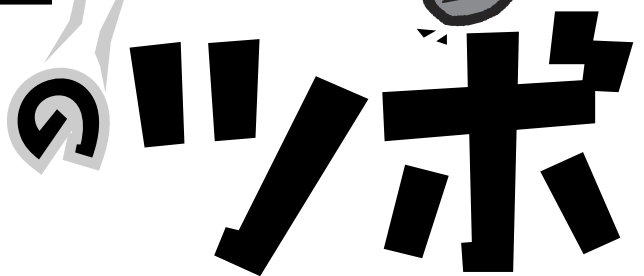


# Visual Basic NET



## 第34回 フォームの便利な機能

西田 雅昭  
NISHIDA, Masaaki

### Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

### Level



### Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥TUBOディレクトリに収録しています。

¥TRANSPARENT  
フォームを透明にするサンプル

¥FORMSHAPE  
変形フォームを作るサンプル

前回は、主としてコーディングの際に使える、便利な機能を紹介し、同時にVisual Basic .NET 2003で使えるようになった新機能も紹介しました。

今回は、フォームについての便利な機能を紹介します。



### VB.NETのフォーム

“フォーム”というと、「あまり研究はしていない。それにVB6.0の時代とあまり変わっていないだろう」というのが一般的な理解だと思います。

しかし、VB6.0とは大きな違いがありますし、便利な機能も追加されているのです。また、VB6.0を長年使っている方にとっては、戸惑うことも少なくありません。

ある書籍で、「VB.NETはADOを除けば、あまり変わっていない。VB6.0と同じように使えばよい」と書いてあるのを見たことがあります。このような考え方はVB.NETを使う意味がないでしょう。

今回は、VB.NETのフォームを作成する方法を中心に、便利な使い方を追求

していきたいと思います。また、VB6.0との違いも考えていきましょう。以前に触れた部分と重複することもあるかもしれませんが、「楽々フォームの作り方」のまとめです。お許しください。



### フォームの名前

しばらくの間、「FormTest」というプロジェクトを作成していると仮定して話を進めます。

Windowsアプリケーションのプロジェクトを作成すると、システムが自動的に「Form1」という名前のフォームを作成してくれます。

まず最初にしたいのは、フォームの名前を変えることです。VB6.0では、プロパティウィンドウ内のフォームの「Name」プロパティで名前を変更すると、自動

的にフォームのファイル名も変更してくれました。

しかしVB.NETでは、この反対になります。ソリューションエクスプローラでフォームのファイルを選択（クリック）し、プロパティウィンドウで「ファイル名」プロパティを変更します。

この場合のプロパティウィンドウの内容は、フォームデザイナーでフォームを選択しているときのプロパティウィンドウとは違います。「Form1.vb」ファイルのプロパティウィンドウ（図1）なのです。

VB.NETでは、フォームも拡張子が「.vb」です。私は、エクスプローラ上でファイルの性質が一目でわかるように、リーディングタグを付けて、「frmMain.vb」のような名前を付けています。

なお、「ファイル名」プロパティを

図1：Formファイルのプロパティ



更するときには、忘れずに拡張子「.vb」を付けてください。これを忘れると警告画面が出ます。

ところで、「ファイル名」プロパティを変更するとフォームの名前も変更されるでしょうか。コードエディタをみると、クラス名は「Form1」のままです。クラス名を変更するには、フォームデザイナーでフォームを選択しておいて、「(Name)」プロパティを変更しなければいけません（図2）。

## スタートアップ フォーム

Windowsアプリケーションを作成する際にシステムが作ってくれる「Form1」は、デフォルトでスタートアップフォームになっています。この名前を変更すると、実行の際にシステムは「Form1」が見つからないので、次に「Sub Main」を探します。これも見つからないとエラーを出してきます。

変更しフォームの名前「frmMain」をスタートアップフォームに設定しなければならぬのです。

それには、まずソリューションエク

図2：Formクラスのプロパティ



スプローラでプロジェクト（ここでは「FormTest」）を右クリックし、「プロパティ」を選択します。プロパティページが開くので、左側のツリーから「全般」ペインを表示します。そして、「スタートアップの設定」コンボボックスで、「frmMain」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

## フォームの追加

フォームを追加する際には、メニューから [プロジェクト] - [Windows フォームの追加] と選択し、テンプレートから「Windows フォーム」を選択することはご存知ですね。

でも、以前に作成したフォームを流用して、手間を省きたい場合もあります。このような場合、VB6.0では、エクスプローラ上でファイルをコピーしていましたが、VB.NETでは、メニューから [プロジェクト] - [既存項目の追加] と選択します。

「既存項目の追加」ダイアログボックスが開きますから、必要なフォームファイルを選択して [開く] ボタンをクリックします。

うれしいことに、選択したフォームは、システムがプロジェクトのフォルダ内に自動的にコピーを作成してくれます。プログラマは何も気にする必要はないのです。

ソリューションエクスプローラのプロジェクトを右クリックすると開くショートカットウィンドウには、[追加] という項目があります。これを選択するといろいろな項目を追加ができるこ